



双葉小の 研究

石狩市立双葉小学校

2023年度 双葉小の研究



研究概要（放送研に関わって）



研究授業① 5年1組 原田 香菜 教諭
家庭科「ひと針に心をこめて」



研究授業② 3年2組 石川 祥太郎 教諭
国語科「ポスターを読もう」



一人一実践から



研究のまとめ

研究の経緯

- 児童の実態から
各種検査から国語科の学力に課題
(関心・意欲を含む)
 - 本校研究の実績から
算数科・外国語科・道徳科の研究
授業のスタンダードを構築
- ↓
- 本校研究主題
自ら学び 考える子
～国語科の授業改善を通して～

研究概要

(放送研に関わって)



■ 研究計画

	国語科	ICT
1年次（2021年）	研究の方向性の模索	GIGAスクール研修
2年次（2022年）	物語文の指導計画見直し	
3年次（2023年）	説明文の指導計画見直し	

3年次は物語文の研究を継続しつつ、ICT及び放送番組の活用の研究を追加。4年次に説明文の研究。

■ 本校研究主題

自ら学び 考える子

～ 国語科の授業改善を通して ～

国語科という枠を超え、ICT・放送番組の活用という側面から、本校の目指す子ども像に迫る。

■ 本大会テーマ

心を揺さぶり 主体的・対話的で深い学びを創造する放送教育・ICT活用

～ 個別最適な学び。協働的な学びの充実を図る授業改革 ～

大会テーマである「個別最適な学び」と「協働的な学び」をICT・放送番組の活用することでどのように実現していくかを考えていく。

ICT・放送番組 活用の実際

ICTの活用

- **GIGAスクール研修**

Microsoft Teams

x Sync

コラボノート

児童全員にタブレット端末が配布されてから、ずっとGIGAスクール研修を行い、担当の教員からタブレットの活用法を学んできた。

- **新しいかたちの学び**

担当教員が授業補助

新しいかたちの学びの事業で担当教員が不定期で授業（国語・算数）に支援に入り、ICTを活用した授業を進めている。全校的にICTの活用は進んでいる。

放送番組の活用

活用している先生もいるが…

■ 研究の柱

ICTの 効果的な活用

場面に合わせ「Microsoft Teams」「xSync」「コラボノート」等のアプリを効果的に活用した授業

放送番組の 効果的な活用

目的をはっきりさせ、どの場面でどの部分を見せるのか等、放送番組を効果的に活用した授業

■ 研究大会に向けて

ICTの活用
放送番組の活用



個別最適な学び
協働的な学び

4項目を軸にした授業づくり

研究大会に 向けて

研究授業①

5年1組

授業者：原田 香菜 教諭

家庭科

単元名 「ひと針に心をこめて」

NHK for School「カテイカ」
〈手ぬいでイカした小物づくり〉



授業の概要

- **ステップ1 針と糸を使ってできること**
身の回りの布でできているもの
針と糸を使ってできること
- **ステップ2 手ぬいにトライ！**
〈前半〉手縫い（玉結び・玉止め・波縫い・返し縫い・ボタン付けなど）の練習
〈後半〉ティッシュケースの製作
- **ステップ3 手ぬいのよさを生活に生かそう**
ポートフォリオの製作（学習の振り返り）
家庭での実践に向けて

ICTの活用

タブレット端末

■「Microsoft Teams」

事前アンケート

裁縫セットクイズ

学習の振り返り

授業の最後には自分の学びをふり返り、記録していく。
(個別最適な学び)

■「コラボノート」

話し合い活動（針と糸を使ってできること等）

設計図・ポートフォリオの作成（作品交流）

■「xSync」

実物投影機

教師の実演

画面を共有して話し合い活動。全体交流。
(協働的な学び)

NHK for School 「カテイカ」 〈手ぬいでイカした小物づくり〉



- 実習への意欲付け
- 手縫いの技能の習得と確認

自分が選択した縫い方を確認したり、自分がつまづいた縫い方を見返したりしながら製作を進めることができる。
(個別最適な学び)

放送番組の活用

成果と課題

〈成果〉

- 放送番組の必要な部分を切り取って示すことで、先生の意図が伝わっていた。
- 子どもたちが上手にタブレットを活用していた。
- 必要感をもって放送番組を活用していた。

〈課題〉

- デジタルの情報はアナログとちがいその場に残らない。使い分けが必要



〈助言〉

- 番組を見せることで子どもたちの意欲が高まっていた。
- その後の展開に工夫が必要。単線型から複線型へ。
- ルーブリックの活用を。
(安井先生)



研究授業②

3年2組

授業者：石川祥太郎 教諭

授業支援：前多 香織 教諭

野村香菜子 教諭

国語科

単元名 「ポスターを読む」

NHK for School「お伝と伝じろう」
〈言葉が人をひきつける〉

授業の概要

- 1 : ポスターの読み方を知る
- 2 : 目的や対象によってポスターやキャッチコピーの書き方が変わることを学ぶ
- 3 : 本を読むことの良さを伝えるキャッチコピーを考える
- 4 : キャッチコピーを改善する

ICTの活用

タブレット端末

- 「コラボノート」、「x Sync」

ループリック、振り返り

ループリックを提示し、自分に合わせた目標を確認する。目標と振り返りを重ね、自分の学びを記録していく。

(個別最適な学び)

ポスターのひみつ (話し合い活動：ペア → 全体)

2つのポスターの違い (話し合い活動：グループ → 全体)

キャッチコピーづくり (個人思考 → グループ交流 → 全体交流)

画面を共有して話し合い活動。
作品交流 (学習の形態をスムーズに移行)

個人思考

グループ (ペア)

全体交流

(協働的な学び)

NHK for School 「お伝と伝じろう」 〈言葉が人をひきつける〉

The screenshot shows the NHK for School website interface for the program "お伝と伝じろう". At the top, there is a navigation bar with links for "番組トップ", "放送リスト", "番組・出演者・テーマ曲紹介", and "おうちで学ぼう". Below this is a video player showing a scene from the program. To the right of the video player, there is a "チャプター" (Chapter) section with a "scene 02" selected, titled "心をつかむ"キャッチコピー"を". Below the chapter section, there is a "ないようを読む" (Read the subtitle) section with a text area containing the following text: "サトルが「伝じろうの心の中」へやってきました。アシスタントのお伝がフルーツをたくさんならべています。たくさんのフルーツのなかから伝じろうが好きなものをえらんで、みがいて、伝じろうにわたしました。「ねえ、伝じろうくん。せっかくポスターをつくったのに、みんなぜんぜん本をかりてくれないんだ」と相談するサトル。すると伝じろうはポスターを手に取り、「この言葉じゃあ、みんなの心はつかめないなあ」と言いました。「みんなが本をかりたくなるような"キャッチコピー"をつくらないと」。キャッチコピー？". At the bottom of the video player, there is a progress bar showing "再生開始 00 : 00 ~ 再生終了 10 : 00" and a "決定" (Decide) button.

放送番組の 活用

- キャッチコピーづくりに向けた意欲付け
- 言葉を磨く方法の理解

成果と課題

〈成果〉

- 発表が苦手な子がいる中、全員が発表することができた。
- コラボノートの中の記録をもとに、次の学習に進むことができた。

〈課題〉

- 方法（擬人化、五七五）ごとにグループ分けをすると良かった。



〈助言〉

- 課題を提示する際、方法を提示し、子どもたちに選択させるのが良かった。いろいろな方法を端末を活用して支援を。（安井先生）
- 「目的・相手」によってポスターの内容が変わることをキャッチコピーづくりでも生かされると良かった。

（加藤主事、吉田主事）

一人一実践から



1年1組
授業者 杉本教諭
生活科
「きせつとなかよし
はる なつ」



大空学級
授業者 菊地教諭
佐野教諭 小山教諭
村田教諭 武蔵教諭
特別活動
「熱中症のキケン」



6年2組
授業者 川又教諭
算数科
「角柱と円柱の体積の
求め方を考えよう」

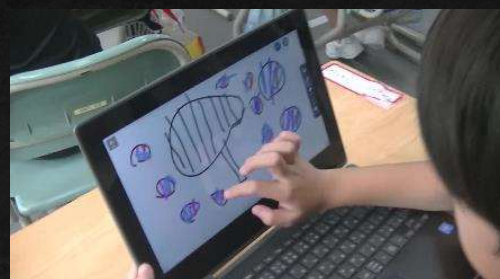


2年生
授業者 柴田教諭
森本教諭
体育科
「マット運動」



1年1組 授業者 杉本教諭 生活科「きせつとなかよし はる なつ」

- NHK for School「すたあと」
〈しゃぼんだまをつくろう〉



放送番組を見て、いろいろなシャボン玉の作り方があることを学ぶ。学習への意欲が高まる。

大空学級 授業者 菊地教諭 佐野教諭 小山教諭 村田教諭 武蔵教諭 特別活動「熱中症のキケン」

- NHK for School「キキとカンリ」
〈熱中症とキケン〉



放送番組を視聴しながら熱中症の原因を確認。
必要に応じて、番組を止めることで伝えたい内容をわかりやすくした。





6年2組 授業者 川又教諭 算数科「角柱と円柱の体積の求め方を考えよう」

- NHK for School 「マテマティカ2」
〈立体を四角く〉



放送番組を授業中ではなく、宿題として活用。
家庭で視聴してから、授業に臨むことで学習のスムーズな理解を促す。

2年生 授業者 柴田教諭 森本教諭 体育科「マット運動」

- NHK for School「はりきり体育ノ介」
〈器械運動（マット）～前転・後転に挑戦だ！～〉



- タブレット端末：「タイムシフトカメラ」

放送番組を視聴することで、前転のポイントをおさえ、その後、実践。前転をしながら、タブレット（アプリによる時差再生）に映る自分の姿を確認。見つけた課題をもとに次の実践へ。

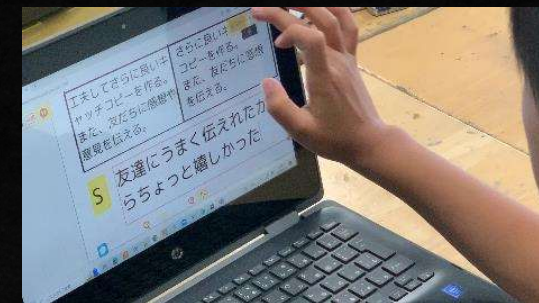


研究のまとめ

ICTの活用

- 「Microsoft Teams」
「コラボノート」の活用

ループブック
振り返り



自分の学びの目標の確認し振り返りを記録。
(個別最適な学び)

- 「x Sync」
「コラボノート」の活用

話し合い活動

(ペア・グループ→全体)

自分の考え、作品の交流

(個人思考→ペア・グループ→全体)



画面を共有した話し合い活動。自分の考え
(作品)の交流。
(協働的な学び)

研究のまとめ

放送番組の活用

学習の見通し、意欲の向上（課題の設定、学習計画）



指導計画の工夫。
複数の選択肢の中から自分で選択する。その支援のための放送番組（ICT）の活用。
（個別最適な学び）

学習内容の習得、確認



自分に必要な部分を見る。
自分がつまずいてしまった部分を見返す。
（個別最適な学び）

これからの研究

〈放送研に関わる研究を通して〉

個別最適な学び、協働的な学びの実現に向け、ICT・放送番組が有効であることを改めて学ぶことができた。

授業に活用できる豊富なコンテンツを知ることができた。

先生方の色々な実践から学ぶことができた。

〈次年度の研究〉

国語の研究を継続。

ICT、放送番組の活用という引き出しを生かした授業づくり。

ご清聴ありがとうございました。